

# 子どもの命を守る

## 誤飲・誤嚥を防ごう！

巡回訪問つうしん 21号  
令和6年3月発行

令和5年度の横浜市の保育・教育施設等からの事故報告では、誤飲・誤嚥の事例が多くあがってきました。令和4年度に比べて2倍の増加になっています。保育活動中や保育室で使用されているものを誤飲、調理室での異物混入等です。改めて誤飲・誤嚥の事故について考えてみましょう。

### 令和5年度の事件事例より

#### 事例1

1歳児が午前中にシール貼りの活動をしていた。その後、嘔吐した。丸シールと一緒に入っていた。

#### 事例2

1歳児の口の中から養生テープがでてきた。養生テープを床にはって線路に見立てて遊んでいたクラスに、遊びに行っていた。

#### 事例3

0歳児が割れた水風船の破片を飲み込んでいた。便から出てきた。

#### 事例4

4歳児が汁椀からビニールの切れ端を出す。もやしのビニール袋の破片だった。

下記の表は『巡回訪問つうしん』11号（令和3年5月発行）より抜粋して掲載しています。保育環境で誤飲になりうる可能性がありますので再確認をおすすめします。

場面	誤飲が予想されるもの	対応と援助（例）
安全点検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタンドグラスタック</li> <li>・マグネット</li> <li>・ビニールテープ</li> <li>・ペットボトルのふたを2個つなげたもの</li> <li>・フェルトで作った魚</li> <li>・つるつるして飲み込んでしまいそうなもの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取れかかったもの、剥がれたもの等、修理はすぐに行う</li> <li>・マグネット等の落下に注意する（丸いマグネットは使用しない）</li> <li>・子どもが巻いてあるビニールテープをはがし始めたら、「剥がれちゃったね、直しておくね」と伝えて引き上げる</li> </ul>
室内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣服のボタン</li> <li>・髪ゴム、ボタン電池</li> <li>・カバンのキーホルダー</li> <li>・乾いた花びら等</li> <li>・気管支拡張テープ</li> <li>・ひも通し</li> <li>・穴落とし用パーツ</li> <li>・粘土・シール類</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・髪ゴム、髪留め、小物の落下、置き忘れ、ネジのゆるみに注意する</li> <li>・整理整頓、片づけを適切に行う</li> <li>・遊びの集中が切れるタイミングは特に注意する</li> <li>・小さい玩具、パーツは数を事前に確認する</li> <li>・少人数で行う環境を設定する</li> <li>・20ミリ未満の物は保育者が管理する</li> </ul>
室外	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木の実・小石・種等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専用の袋を用意する</li> </ul>

※上記参考例の他にも様々な誤飲事例があります。次の文献も参考にしてください。  
「保育所におけるリスクマネジメント ヒヤリハット/傷害/発症事例 報告書」H26年 兵庫県

### ～昨年のリンゴの事故を受けて～

<教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン（こども家庭庁）>では、リンゴ（梨）は「かみ砕いても硬く、切り方によっては詰まりやすい」として、離乳食完了までは加熱で軟らかくして提供することをすすめています。

保育者が側にいるだけでは窒息に気がつかない場合があります。リンゴ（梨）に限らず、子どもの口に食物が入っている間は、保育者は子どもから目を離さないようにしましょう。また、事故が起きた場合の適切な対応を習得し、万が一事故が発生しても、重篤な事態に陥らないようにすることが大切です！

### 事故が起きた時の異物除去について

窒息すると短時間で命にかかわる重い症状になってしまいます。発見したらまずは周りの人を呼び、AEDの用意、**救急車の要請**を依頼します。

次に呼吸が苦しい、呼吸困難な場合、乳児は**背部叩打法**と**胸部突き上げ法**、幼児は**背部叩打法**と**腹部突き上げ法**を繰り返してください。

対応の途中で意識がないと確認したら、すぐに心肺蘇生を開始しましょう。

#### 背部叩打法

乳児



乳児は片腕にうつぶせに乗せて顔を支え、頭を低くして、背中の中を平手で何度も連続して叩きます。

幼児



幼児は子どもの後ろから片手を脇の下に入れて、胸と下顎部分を支えて突き出し、顎をそらせます。片手の付け根で両側の肩甲骨の間を強く迅速に叩きます。

**要注意！**

**腹部突き上げ法**を行った場合は腹部の内臓を痛める可能性があるため、救急隊にその旨を伝えるか、速やかに医師の診察を受けてください。  
～日本医師会救急蘇生法気道異物除去法の手順より～

下記のサイト内に映像が載っています。園内研修等でご活用ください。  
～政府広報オンライン「えっ？そんな小さなもので？」子供の窒息事故を防ぐ！～  
<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201809/2.html>



新年度を迎える前に今一度給食室を含め、園内の環境等を見渡してみましょう。危険な物はないでしょうか。園内のハザード箇所や定期的なマニュアルの確認とともに職員全員で安全点検をしましょう。また、点検項目の確認も必要です。

異物除去を含めた救急救命対応訓練や事故を想定したシミュレーション等の実施も、職員間で検討してみましょう。



こども青少年局 保育・教育運営課  
045-671-3564